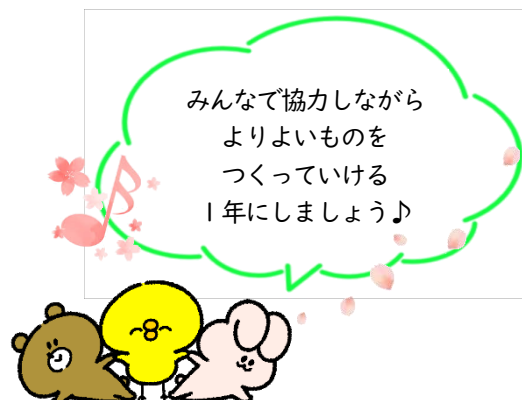




## 北海道言語障害児教育研究協議会

# 2025年度 総 会 議 案

|       |                 |        |
|-------|-----------------|--------|
| 第1号議案 | 2024年度事業報告      | p2～p9  |
| 第2号議案 | 2024年度決算報告・監査報告 | p16    |
| 第3号議案 | 2025年度事業計画      | p9～p15 |
| 第4号議案 | 2025年度予算案       | p17    |
| 第5号議案 | 会員提出議案          | p15    |



〈 例年の総会議案の審議の流れは以下の通り 〉

- 3月 運営委員会研修会で「総会議案」を作成する。
- 4月 「総会議案」をホームページ上に掲載する。  
各ブロックで討議し、理事が会員の意見を集約する。
- 4・5月 理事会で審議し、原案に修正を加え最終決定する。  
審議の内容及び修正された部分を通信で会員に報告する。

※ 2007年度の会則改正により、会員に直接諮るべき議案がない場合は、理事会の決定をもって総会の決定に代えることができることとなりました。

## 第1号議案 2024年度事業報告

### 1. 会務報告

#### ◆ 2024 年

- 3月 令和5年度道言協会計監査業務立会（札幌市立元町小学校、真駒内桜山小学校）：松澤
- 4/5 道言協通信No280・総会議案・教室会員調査など発行
- 4/30 第1回道言協理事会（札幌市立ひばりが丘小学校・参集とZOOMのハイブリッド開催。）
- 5/11 全難言協第1回理事会（東京都世田谷区立駒澤小学校）
- 5/18 道親の会総会・代表者会議
- 5/18 道言協第1回運営委員会（札幌市立南月寒小学校・ハイブリッド開催）
- 6/16 第1回組織部会（札幌市立南月寒小学校）
- 6/16 第1回研究部会（札幌市立南月寒小学校）
- 6/18 道言協通信No281発行
- 7/18～8/8 第149回臨床研修会（動画配信）：道親の会との共催事業
- 8/1 道言協苫小牧・白老大会記念講演録画会（白老町立白老小学校）
- 8/9～10 全難言協全国大会沖縄大会・全難言協第2回理事会（沖縄県那覇市 なは一と）  
：吉田北海道ブロック代表・北海道理事代理
- 8/11 第150回臨床研修会（言難ABC「ことばの教室の基礎・基本と実践」）（かでる2.7）
- 8/23 研究大会発表集録、会員教室一覧発行
- 8/23 道言協通信No282発行
- 9/13～10/15 道言協苫小牧・白老大会オンデマンド配信
- 9/13～10/15 第150回臨床研修会オンデマンド配信
- 9/17 道言協第2回運営委員会（大会関連リモート会議）13時～14時
- 9/27 道言協苫小牧・白老大会（1日日程）（苫小牧市民会館）
- 10/23 渡島教育局局長表敬訪問・函館市教育委員会教育長表敬訪問（函館市）  
：三浦会長、中田函館大会実行委員長、水谷開催地事務局長、濱崎
- 11/9 第2回研究部会（札幌市立南月寒小学校）
- 11/22 道言協第2回運営委員会（札幌市立ひばりが丘小学校）

#### ◆ 2025 年

- 1/17 道言協通信No283・研究紀要発行
- 1/26 第2回組織部会（札幌市立南月寒小学校）
- 2/8 第3回研究部会（札幌市立南月寒小学校）
- 3/1 第3回運営委員会（札幌市立南月寒小学校）



## 2. 研究部の活動報告

### (1) 研究推進計画の提案と推進

- ・理事会研修会（4月30日）
- ・運営委員会（5月18日・9月17日・11月22日・3月1日）

### (2) 研究大会の計画・運営・反省

- ・理事会研修会にて苫小牧・白老大会の内容について提案。（4月30日）
- ・道言協通信No.279にて岩見沢大会の反省案を提案。（2024.1.17）

### (3) 研修会の計画と運営

- ・第148回言語障害臨床研修会 2024/7/18(木)～8/8(木)  
共催：NPO法人ことばを育てる親の会北海道協議会  
内 容：YouTubeを活用したオンライン研修  
演題「子どものことばの発達と大人の関わり」  
講師：谷戸 諒太 氏（国立特別支援教育総合研究所）  
会 費：会員0円 保護者0円 会員外1000円  
参加者：210名（会員172名、保護者32名、会員外6名）
- ・第149回言語障害臨床研修会「言難ABC」 2024/7/29 かでる2・7にて  
内 容：基礎講座 講座1吃音 講座2きこえ  
講師：濱崎先生、松澤先生、石川先生、大熊先生、吉田先生  
会 費：会員1000円 会員外4000円  
参加者：49名（会員45名 会員外4名）
- ・第150回全道大会時臨床研修会 2024/9/13(金)～10/15(火)  
内 容：YouTubeを活用したオンライン研修  
演題「ギフテッドについての理解と支援」  
講師：片桐 正敏 先生（北海道教育大学旭川校）  
会 費：全道大会参加費に含まれる  
参加者：236名（会員223名 会員外13名）
- ・第151回 冬季の事例検討会  
今年度はどのブロックからも希望がなく、未実施

### (4) 研究部研修会の開催

- 第1回研究部会研修会 「今年度の反省と今後の研修会について」等の確認 他（2024/6/16）
- 第2回研究部会研修会 「大会反省と次年度の研修会に向けて」等の確認 他（2024/11/9）
- 第3回研究部会研修会 「次年度の研修計画」 他（2025/2/8）

### 3. 組織部の活動報告

#### (1) 「2024年度版 北海道における言語障害児教育の実態」の発行 (2025. 3. 15)

北海道の言語障害児教育に関わる諸問題について、継続して実態を調査し、結果をまとめて発行した。道内の教室、機関の実態について会員相互の理解を深めた。会員へ調査用紙を配布する際は例年通りホームページで公開するといった完全電子化で行い、質問項目も簡略化した。また、今年度は記入の締切時期を夏休み明け（8月下旬）にしたことで、会員が負担なく調査に取り組みやすいように工夫した。

#### (2) 研究大会における全体会の企画

全体会は昨年同様、動画配信という形で会員の皆様に視聴していただいた。道言協からの情報提供は紙面報告とし、今年度は「会員同士のつながり（研修・情報共有）」をテーマに各ブロックの代表者から、それぞれのブロックの現状を発表し、会員同士で共有する機会とした。

北海道という広域で拡散された地域で、それぞれの地域の実情においてどのように研修の機会をもつか、特に会員が少ないブロックや新しい会員を迎えた地域においては課題も多く、それぞれに工夫していることが報告された。今後は、道言協という組織を活用しながら、会員同士のつながりを深めていくことが大切であることの確認をした。視聴した会員からは「各ブロックからの説明、メッセージを聞くことで、他地域の様子がよくわかり、参考になることもあり良かった」等の感想があり、概ね目標は達成できたと思われる。

今後とも会員のみなさんにとって意義ある全体会にしていきたいと考えている。

#### (3) 組織部会研修会の開催

##### 第1回組織部会研修会 (2024. 6. 16)

実態調査の質問用紙の修正・役割分担等、研究大会全体会の検討 他

##### 第2回組織部会研修会 (2025. 1. 26)

実態調査の集計及び編集、実態調査の方法等の見直し、研究大会全体会の反省と今後の方向性の検討、組織の見直しについての検討 他

### 4. 広報部の活動報告

#### (1) 道言協ホームページの充実と活用

・昨年度に引き続き、必要な情報を随時HPに掲載し、理事を通して閲覧を呼びかけた。HP係を中心として、通信や大会要項、研修案内等、迅速に必要な情報を掲載することができた。

#### (2) 「道言協通信」の発行・「総会議案」の発行

・4月5日「総会議案」を発行した。  
・苫小牧・白老大会が「開会式・全体会・大会記念講演」配信、二日目は会同して実施され、通信の発行は年に4回とした。道言協通信がHPに掲載された際には、理事を通して会員に通知し閲覧を呼びかけた。

- 通信280号：2024年4月5日発行 ・理事会研修会の主な検討事項・年間計画案・運営委員会構成・調査のお知らせと原稿のお願い・会費納入依頼・研修会案内 等
- 通信281号：2024年6月18日発行 ・理事会研修会の報告・会費納入依頼・全国理事会報告・臨床研案内 苫小牧-白老大会連絡 等
- 通信282号：2024年8月23日発行 ・苫小牧-白老大会諸連絡・討議の柱（案）・全難言全国大会報告・ブロック活動紹介・臨床研修会報告・臨床研案内・会員教室一覧発行報告 等
- 通信283号：2025年1月17日発行 ・会長メッセージ・大会反省・大会臨床研報告・研究紀要発行報告・実態調査について・督促状及び会費納入依頼 等

(3) 「研究大会発表集録」(8/23)と「研究紀要(大会記録集)」(1/17)を発行。

- ・発表者、記録者、分科会協力員の皆さんの協力で、計画通り発行できた。
- ・研究紀要執筆要項を5月段階で送信したが、大きな混乱もなく業務を進めることができた。今後も同様のスケジュールを踏襲していきたい。
- ・FAXでの送信確認を今年度も踏襲したが、今後FAX使用が原則禁止となるため見直しが必要。
- ・大会集録の発送は、道言協会員分を発送係(札幌)で、道言協会員外の参加者と贈呈分(後援依頼先・大会講師・臨床研講師・コーディネーター等)を大会開催地で行った。

(4) 原稿印刷と発送業務

- ・上記(2)(3)の他、会員教室一覧を計画通り発送した。メール便での発送を基本とし、送料と内容物によっては郵便を利用した。北海道における言語障がい児教育の実態等については、計画で出されていた通り、2025年度の発送予定に合わせて今年度についての発送はなかった。

## 5. 庶務部の活動報告

- (1) 文書作成業務 ～ 運営委員会研修会(4回)、組織部会研修会(2回)、研究部会研修会(3回)などの派遣依頼の作成と発送。
- (2) 文書の保管 ～ 各種文書の整理、保管、保存文書の製本作業。
- (3) 会員の把握 ～ 教室会員調査をもとに、発送用住所ラベル、会員教室一覧原稿、会員教室一覧を作成。発送作業(第2回目以降)。
- (4) 会計業務 ～ 予算案・決算案の作成。会費の徴収、領収書の発行。旅費の支給。物品の購入と各種の支払い。会計台帳の作成。

※ 今年度より、会費領収書を、振込の際の記録で替えていただくよう協力を依頼したところ、例年の1/3程度の発行となり、業務の削減と費用の縮小に効果的でした。ご協力いただきありがとうございました。

### ※今後に向けて

用紙代や、郵券の値上がりが続いていることなども考慮し、従来の教室一覧を印刷して配布する方法ではなく、データを必要な人が開いて見られるようにして、印刷は各自で行うという方法にしてはどうか。

## 6. 2024年度 総括

(1) 研究大会

○第57回道言協苦小牧・白老大会が一日日程で開催しました。

○講演会は岡田クリニック医院長岡田尊司先生。9分科会が開かれ、事例研究9分科会でした。

2024年度の研究大会は開催地事務局である白老町立白老小学校ことばの教室を中心に開催されました。開会式、全体会、大会記念講演をオンデマンドによる動画配信とし、視聴期間は9月13日(金)から10月15日(火)でした。そして、分科会が参集形式で苦小牧市民会館を会場にして、9月27日(金)に一日日程で大会を開催しました。

今回の大会は244名の参加があり、当会の研究主題のもと、9分科会の構成により、レポートが発表されました。「発表者を大切にする」姿勢を基本に、レポートをもとに参加者全員で協議の柱に沿った活発な協議が行われました。さらにコーディネーターからレポート発表に対して専門的な助言をいただき、参加者全員の学びを深めました。

大会全体会では、テーマを「会員同士のつながり（研修・情報交流）」として、各ブロックからの説明、メッセージを聞くことで、他地域の様子がよくわかり、参考になることもあり良かったという感想も複数ありました。

北海道という広域で拡散された地域で、それぞれの地域の実情において、どのように研修の機会をもつか、特に会員が少ないブロックや新しい会員を迎えた地域においては、課題も多く、それぞれに工夫していることが報告されました。それゆえに、道言協という組織を活用しながら、会員同士のつながりを深めていくことが、大切であるとの提言がありました。

記念講演会は岡田クリニック医院長の岡田尊司先生をお迎えして、「愛着アプローチと心の育ち」というテーマでお話していただきました。「愛着とは、養育者との間に形成される絆であり、1歳半までが愛着形成の臨界期と言われている。愛着はオキシトシンというホルモンが鍵を握り、精神の安定や健康、更には寿命さえも左右する。」とお話されました。愛着アプローチを考慮すべき状態として、多動、不安症、不登校、ゲーム依存などを挙げられ、学校現場でも近年こうした子どもの問題がとて増えていることを連想しました。

岡田先生は、愛着に問題を抱える子どもへのアプローチとして、安全基地になるためのことばの使い方について具体的に話されました。ここでは『正しい言葉』と『共感の言葉』とだけ紹介しますが、具体的な内容は当会の「研究紀要 第57回北海道言語障害児教育研究大会 苫小牧・白老大会記録集」の『苫小牧・白老大会の成果と課題』をご覧ください。ことばを扱う私たちにってはとても興味深い話であり、ことばを支える「心の育ち」を大切にしたい支援を模索している我々の関わり方について示唆に富む講演をしていただきました。

9分科会の内訳は、事例研究が9分科会でした。ことばやきこえに心配がある子ども達の理解と支援について、表面の心配だけにとらわれず多面的に捉えて、必要な支援をしている様子が報告され、「ことばを支える『心の育ち』」という観点からより子どもの姿を深く捉え、よりよい支援に結びつけていくためのレポート発表、協議、さらにはコーディネーターからの助言がなされました。

この場をお借りいたしまして大会準備・運営にご尽力いただいた開催地の皆様、各方面の関係者の方々に深く感謝を申し上げます。

## （2）臨床研修会

〇道言協の研修会は、年に4回、経験の浅い先生方を対象にした「言難ABC」や専門的な講師による研修会など、会員のニーズに合わせた企画をしてきました。北海道は広く、遠方からの参加には難しさがあります。直接集まってきた研修だけでは、参加の機会を得られない会員もいます。そこで、オンラインを活用した動画配信の講座やそれぞれの地域に出向いての研修会など、多くの会員が学びを深めることができるよう考えてきました。

第148回言語障害臨床研修会は、ことばを育てる親の会との共同開催でした。国立特別支援教育総合研究所 谷戸 諒太 氏を講師として、「子どものことばの発達と大人の関わり」と題した講座を開催しました。子どもとの関わりにおける大切な心得や、子どもの育ちを理解する上で基礎となる考え方についてお話いただきました。「子どものこころを育てる」という道言協の研究主題にとて通じる内容だったと思います。

第149回言語障害臨床研修会「言難ABC」では、道言協運営委員が中心に講師となり、講義やワークショップを行いました。言語障害に関する基礎的な内容や、指導・支援を行う上での大切なポイントについての説明の後、吃音、きこえの2つの障害についての講座を行いました。吃音については、赤平小学校の大熊先生による吃音についての基礎知識の講義と南月寒小学校の濱崎先生による事例を使ったワークショップを行いました。きこえについては、実際にきこえない体験やきこえにくさへの配慮などについてひばりが丘小学校の松澤

先生、元町小学校の石川先生に講義をいただきました。グループワークを通して、話し合いをしながら子どもへの理解を深める取り組みは、指導を進めていく上で大切な手だてを知る機会となりました。

第150回言語障害臨床研修会は、北海道教育大学旭川校の片桐正敏先生による「ギフテッドについての理解と支援」という講座を開催しました。「ギフテッド」と言われる子どもたちの生きづらさやそれを支える保護者の苦悩などを知ることができ、こうした子どもたちへの支援も大切だと気づかせていただきました。

冬季の事例研修会は、新型コロナウイルスの状況を考慮しながら、各ブロックや地域での開催予定となっています。

2025年度におきましても、会員の皆様の要望に添った内容の研修となるようオンライン研修などを含め、可能な形で実施を計画しております。

### (3) 研究計画の検討

○現在の研究主題が日々の実践にどのように浸透してきているか、検証しながら実践を。

研究主題を「ことばを支える『心の育ち』を大切にした支援のあり方を考える」としてから5年以上が経過しました。今年度はほとんどの場面で交流しながらの研究を進めることができた一年となりました。コロナ禍の研修では、道言協としてオンラインを有効活用した研修会を行ってきました。「繰り返し視聴し学習を深められる」、「遠方の会員も参加しやすい」というメリットがあり、オンデマンドによる録画配信の研修会も引き続き企画してきました。昨今の働き方改革の流れを汲んでということもありますが、道言協運営委員で企画する研修には限界があることが大きな理由であり、研究・研修業務の精選を図っているところです。各ブロック内の研修に頼る状況であることをご理解ください。昨年度に引き続き、ブロックごとに事例研究ができる場所は検討会を行ったり、オンラインが使用できる場所ではそれを利用した研修会を行ったりしていると聞いています。今後も身近でできることから、確実に研修を進めていくことが必要であり、そのためにもブロックの力は大きいと感じています。

なお、道言協ではHP上でいくつかの資料を配付しています。あわせて大会全体会動画、講師の許可を得た臨床研修会動画などはアーカイブで会員はいつでも視聴できます。今年度も『研究主題の説明資料』は、会員の皆様のニーズに合わせて補強していきたいと考え、必要に応じて検討しているところです。私たちが日常子どもをどのように捉え、どのように指導を構成し、省察し、また次の指導を組み立てていくか、という、「支援の思考過程」に沿って書くレポート作成の例も掲載しています。今後もより良い資料となるよう作成したいと考えています。お気づきのことがありましたら、是非ともご意見を各ブロック理事を通してお寄せください。

また、HPでは、道言協以外の各種研修会などもお知らせしています。HPや道言協の資料をご活用ください。

### (4) これからの通級問題・幼児問題（地域に根ざした教室作り）の取り組み

○ニーズが大きくなっている通級指導に、道言協で培ってきた専門性を生かすことができます。

○「基礎定数化」「高校通級」「巡回指導」など新しい動きにも注目し、情報交流していく必要があります。

特殊教育が特別支援教育へと転換してから、この教育に関する様々な指導方法の研究もなされてきました。その中で、発達障がいにかかわる通級教室も急増し、「通級指導」そのもののニーズや、教育界における「通級指導」の役割がとても大きなものとなってきたと感じます。

本協議会は、言語の状態だけにとらわれず、常に一人の子どもを、一人の人として「多面的・総合的」に捉え、「子ども理解」を深め、その時々に必要な支援を考えてきた歴史があります。乳幼児期からの子どもの発達や成長を長い目で見て、通級の果たす役割を考えてきています。また、単に指導内容の研究だけでなく、制度や教室の実態についても調査・研究を進めてきました。今後はより一層、道言協が設立以

来50年かけて培ってきた言語障がい切り口とした「通級指導についての専門性」「通級指導の運営方法」のノウハウを生かし、関係の方々と連携して指導を進めていければと考えます。

平成29年度からは「通級指導教室担当者の基礎定数化への移行」が、平成30年度からは「高校の通級指導」がスタートしました。また、近年は「巡回指導」が導入されている地域・教室が増え続けております。担当者配置の問題や勤務形態の問題、専門性の維持・継承、幼・小・中そして高の間の連携、関係機関とのより一層の協力…といった様々な課題を、地域の実情にあった役割を担いながら「地域に根ざした教室作り」をすすめていきたいと思ひます。現在もまだコロナ禍の中で思うように研修会が行えない状況が続いております。各ブロック・各教室においても、可能な範囲で各地域の教育委員会や教育センター、また親の会等との連携していき、他の研究団体などとのつながりも維持していただければと思ひます。

各ブロックの取組や研修体制を交流できるような実態調査を目指し、冊子や動画を通して交流でき、必要に応じて運営委員会と各ブロックの理事・事務局長とで連絡を取り合い、地域の特長を生かした教室運営を進めていけるよう情報提供をしていきたいと思ひます。ご協力をよろしくお願いいたします。

### (5) 情報の電子化

○会員の利便性と感染症対策への意識をもちながら、HPのいっそうの充実を目指します。

○(6)とも関連して、効率の向上のために電子メール・デジタルデータなどの利用を進めます。

今後HPでの情報提供や電子メールそのほかでの検討や情報共有といったやりとりはますます多くなってくると考えられます。2024年度は、感染症対策はもちろん、会員の利便性を意識しながら、参集を基本とし、Zoomも併用しての打ち合わせをしましたが、2020年度、2021年度のように、参集しての打ち合わせが難しい状況が起こることは2025年度も予測しなくてはなりません。さらに年度途中で思いもかけない予定変更を余儀なくされることが出てきます。その際に多くの方に情報が行き渡るように情報の電子化を引き続き工夫したいと思ひます。

HPの閲覧がしにくい環境にある方もいらっしゃるかもしれませんが、情報の保障、業務のスリム化を進める上でもデジタルデータの活用は欠かせません。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

### (6) 運営組織の再構築

○基本的な流れは、年1回の理事会・4回の運営委員会・年3回の組織部会及び研究部会という構成になっています。

○会にご支援ご指導いただいている多くの方々とかわりを深め、会のあり方や今後についてご示唆いただきたいと思ひます。

道言協では、研究・組織・広報・庶務の4部13係で業務を分担し、3～4人の事務局次長による調整のもと、各部各係を中心として運営を進めてきています。特別支援教育の変遷や、各地域の実情に合わせてそのときどきで運営しやすく効率のよい組織のあり方を模索してきました。

2018年からは年2回だった理事会を年1回とし、運営委員会・発送作業も1回削減しました。2024年度はおおむね予定通りの活動ができました。各ブロックでは地域の実情に応じて、オンデマンドを併用するなどして、活動を進めていると推察します。その中で、疑問や新しい提案などがでましたら、ぜひお知らせいただきたいと思ひます。会員の皆様のお声を伺いながら、年間予定の組み直しや更なる工夫、精選に取り組んでいきたいと考えています。

2025年度全道大会函館大会は函館市立日吉が丘小学校を事務局として準備を進めています。函館大会開催にあたり、開催地事務局及び渡島・檜山ブロックの皆様は感染症対策や会員の参加しやすい大会開催の在り方を模索していただき、全体会・大会記念講演を動画配信、分科会を参集による開催で準備を進めています。数少ない人員で大会に向けて準備をしてくださっていますので、どうかその旨をご承知いただき、会員の皆様にはご理解とご協力をお願いいたします。

また運営組織に関しては、どの地区も活動の人手不足に悩む中、以前よりも研究部・組織部へ部員を増員して派遣していただいています。複数担当者が居ることにより、引継ぎがスムーズになっています。この組織に長く関わってくださっている方々の力をお借りしながら、今後中心となっていく方たちへスムーズに継承していけるような体制作りは、継続的に考えていかなければなりません。これからもご協力よろしくをお願いいたします。

## 第2号議案 2024年度 決算報告・監査報告

⇒ 16ページに掲載

## 第3号議案 2025年度 事業計画

### 1. 基本方針

○北海道における言語障害児の教育及び療育を充実させるために、研究組織を確立して会員間の連帯を図り、会員個々が専門職としての意識をもって研究及び研修に努め、実態調査や地域との連携に取り組み、地域に根ざした信頼される教室・センター作りを目指します。

○参集しての活動を基本として、並行して動画配信による活動を企画し、会議などではオンラインも活用していきます。また、これまで各部各係で業務の精選を行ってきましたが、今年度はさらに「道言協スリム化1年目」と定め、全道大会をはじめとした当会全体の活動の見直しを図っていきます。

- ・昨年度までの理事会での報告や各ブロックへのアンケートなどから、全道大会をはじめとした道言協の活動・運営全体を見直す時期に来ているということが示唆されています。今年度は、事務局を含めた各部各係の活動を、計画通り進めつつ見直しを行っていきます。
- ・このため、年度途中であっても、予定していた活動の内容や運営方法を、変更していく可能性があることをご了承ください。
- ・これに伴い、重要な検討課題が出てきた場合、臨時で理事会を行うことも視野に、見直しを進めてまいります。臨時開催の場合はオンラインを活用しての会議を想定しています。
- ・臨床研修会・全道大会については、感染対策と参加の利便性を講じながら、参集や動画配信での開催をします。
- ・昨年度実態調査について、会員の皆様のご意見を反映し、調査記入の時期を大幅に変更いたしました。なお昨年度分の冊子「北海道における言語障がい児教育の実態」は今年度8月の発送を予定しており、今年度以降もこのサイクルでの調査・発行となります。
- ・理事会研修会、運営委員会研修会、研究部会研修会、組織部会研修会は、参集とオンラインを併用し実施します。内容を精選しながら、働き方改革の流れも踏まえて、平日開催も試行していきます。

○春の理事会研修会は参集を基本とし、オンライン参加も可能として開催します。

理事会は重要な議決機関であると共に、広い北海道で同じ仕事に携わる仲間達の、互いの状況を知る情報交流の場でもあります。2019年度より感染防止対策として中止を余儀なくされていましたが、この状況が落ち着き、集まることが可能になってきた状況です。それらを踏まえた理事会の在り方の検討が

引き続き必要となっています。よって、2025年度も前回（前年度）の開催方法を参考にして、試行的に上記の形式で開催を予定してみました。今年度も情報交流と研修の場の確保のために理事会研修会の在り方を検討したいと考えています。

○第58回道言協函館大会を1日日程の参集で開催します。（詳細はHP・通信285号をご覧ください。）

道言協函館大会は、9月12日（金）から10月14日（火）まで、従来の大会1日目の内容を動画配信で行います。そして9月27日（土）を大会当日として、函館市立中部小学校を分科会会場にして参集での開催となります。なお、大会に関わる内容の検討が主となる第1回運営委員会は5月16日（金）に開催する予定です。

○NPO法人ことばを育てる親の会北海道協議会との共催研修会（例年7月～8月配信予定）を、今年度も動画配信の共催研修会を予定しております。すでに前年度の道言協苫小牧・白老大会に参加していた国立特別支援教育総合研究所の牧野泰美先生に内諾をいただいています。講義内容は牧野先生と道言協研究部で打ち合わせ中です。詳細が決まりましたら、道言協通信や道言協HPでお知らせします。

○言難ABCは8月1日（金）開催予定です。今年度も1日日程ではありますが、参集での開催を予定しております。講師陣は運営委員を中心に人材の確保、各講義の内容の継承などについても検討していきます。研修会の質が維持向上されるように努めていきたいと考えています。

## 2. 研究部の計画

### 1. これまでの研究の経過

道言協のこれまでの研究のあゆみについては、4月に発行した「研究主題の説明資料」の13～16ページに記載していますので、再度ご確認ください。

### 2. 今年度の研究・研修の進め方

2024年度は、昨年度同様に参集形式（一部動画配信を含む）で苫小牧・白老大会を行いました。参加者アンケートからは、研究主題「ことばを支える『心の育ち』を大切にしたい支援のあり方を考える」にかかわり、「『心の育ち』、今、本当に大切な支援なのでとても良い考える機会になる」「とても素敵な主題で、いつも子どもと向き合う時、背景にたちかえる大切さを教えてくれる大切なことばになっている」「広く共通する（ある意味普遍的な）テーマ」などの意見が多数寄せられました。改めて、心の育ちがことばの発達と密接に関わっていることを実感し、現在の研究の方向性を肯定的に受け止めておられる方が多いことがわかりました。引き続き、ことばの発達の基本的な考え方に立ち返り、道言協が大切にしてきたことを継承させるべく、現在の研究主題を深めていくことが必要ではないかと考えます。

2025年度の研究については、昨年度に引き続き下記の研究主題、柱を提案します。

**研究主題（案）「ことばを支える『心の育ち』を大切にしたい支援のあり方を考える」**

**研究の柱（案）**

- 1 その子をどのようにとらえていくか。→子どもの実態把握
- 2 その子にとっての問題をどのようにおさえ、問題の発生と経過をどうとらえるか。→子ども理解の仮説
- 3 その子にとっての必要な育ちとは何か。どのようにかかわり支援するか。→支援の計画と実際
- 4 支援の経過をどのように振り返り、関係者とどう情報共有するか。→支援の省察と共有

各研究の柱の意図は以下の通りです。

- (1) 「その子どものどこをどのように観て、理解していくのか」「その子どもを担当者はどんな姿勢で理解していくのか」ということを考えます。「ことば」「聞こえ」という側面だけでなく、多面的な視点で総合的に子どもを観て、支援の方向付けにつなげていきます。
- (2) その子どもの困っていることや保護者の心配が「どのように発生したか」の筋道を考えます。実態把握で得た情報を基に、「その子どもにとっての問題」を明らかにし、その子がどのような育ちの中で現在の状態に至ったのかの要因を探り、仮説を立てながら理解を深めていきます。
- (3) これまでにとらえた「その子どもにとっての問題」とその子どもの「育ち」、その中の「問題が発生してきた背景」の理解を基に、どう子どもと保護者を支えていくかを考えていきます。また、「今、その子に必要な支援は何か」を常に考えながら支援に当たります。
- (4) 事例を中心とした研究を進めるために、担当者が指導過程での自分の実践の考えや思いを丁寧に振り返り、省みて(＝省察)いきます。個人の記録で、周りの担当者との交流で、教室研修やブロック研修で、大会発表でと、様々な機会を利用して省察・共有し、研究を進めていきたいと考えます。

- ・研究主題の意図を会員が理解しやすいように、「研究主題の説明資料」を年度初めに発行します。
- ・道言協の基本的な研究のスタイルは、「事例研究」です。教室内のケース会議や近隣の教室とのケース会議を行ったり、ブロック研究会で事例研究を行ったりするなど、様々な機会を使って積極的に事例研究を行います。ブロックの理事さんは積極的に研究の情報交流を行いましょう。このほか、「事例研究」以外の「実践」や「教室運営」にかかわる研究にも積極的に取り組みましょう。
- ・2025年度は、第58回函館大会が開催されます。昨年度の第57回苫小牧・白老大会においても各分科会で研究主題を意識したレポートが作成されていました。今年度は現在の研究主題になってから10年目を迎えますが、定着してきた研究主題をもとに、引き続き、日頃の研究の成果や課題を大会に持ち寄り、研究協議を行いたいと考えます。発表者の方には研究主題に基づくレポートの作成、発表をお願いするとともに、経験の浅い担当者も積極的に発表していただけたらと思います。
- ・経験の浅い担当者や一人担当教室の担当者を対象とした研修を、引き続き最重要課題として取り組んでいきます。また、例年は平日の研修会への参加が難しい会員にとって参加しやすい、土曜日や日曜日の研修会の開催を企画しています。今年度については状況を鑑みて、期間限定の動画配信となる予定です。
- ・各ブロックにおいても、ブロック内あるいは近隣のブロックと協力して基礎的な研修の機会を作るように取り組んでください。
- ・公的な研修会や他団体の研修会の情報について、道言協通信を通して会員にお知らせしていきます。



### 3. 第58回北海道言語障害児教育研究大会 函館大会

期 日：2025年9月27日（土）

会 場：函館市立中部小学校（函館市新川町30番26号 0138-26-7981）

- ・開会式、記念講演、全体会、臨床研修会については動画配信、分科会については会場にて対面で実施いたします。レポートは全道から募ることとし、午前に分科会Aを、午後に分科会Bを設置します。
- ・分科会では、研究主題に基づく事例検討をする「事例研究分科会」、教室運営上の諸問題を検討する「教室運営分科会」、様々な実践を交流する「実践報告分科会」を設置します。8分科会程度を予定しています。レポート発表者は、3つの中から、発表内容に合う分科会を選び報告します。
- ・分科会A、分科会Bともにコーディネーターをお願いしたいと思います。司会のエキスパートとして協議づくりをしていただくとともに、必要に応じて専門的な助言をしていただいています。
- ・分科会のコーディネーターの決定や分科会の調整は、運営委員会で行います。
- ・分科会運営を円滑に行うため、「分科会運営の手引き」及び「分科会協議の柱(案)」を発行します。
- ・分科会種別、発表本数と発表時間、1本当たりの協議時間、ブロック割り当て数は以下の通りです。

| 分科会種別   | 発表本数と発表時間 | 1本当たりの協議時間 | ブロック割り当て数 |
|---------|-----------|------------|-----------|
| 事例研究分科  | 1本—25分    | 約120分      | 1本以上      |
| 教室運営分科会 | 1本—25分    | 約120分      | 自由        |
| 実践報告分科会 | 1本—25分    | 約120分      | 自由        |

- ・事例研究分科会の発表レポート作成に当たっては、「研究主題の説明資料（P5～6）」を参考にしてください。また、分科会への参加に当たっては、「分科会運営の手引き」を参考にしてください。

### 4. 研修会の計画

#### （1）2025年度の研修計画

- ① 研修の機会を確保するため、動画配信での研修会を開催します。（7月～8月）  
ことばを育てる親の会との共催を予定しています。
- ② 基礎的な内容の研修会「言難ABC」については、対面での実施を予定しています。
- ③ 全道大会開会前の午前中に行っていた臨床研修会については、動画配信とすることを予定しています。
- ④ 例年ブロックから希望を募って行っていた事例研修会については、今後も希望する各ブロックに対応していきます。

#### 2025（令和7）年度 【第9次2カ年目】

第152回言語障害臨床研修会（親の会と共催かどうかは、5月親の会総会以降決定）

- ・期日 7月～8月
- ・会場 動画配信
- ・講師 牧野 泰美氏（国立特別支援教育総合研究所）
- ・内容 「ことばの教室の在り方、子どもをみる視点」

第153回臨床研修会「言難ABC」

- ・期日 8月1日 金曜日
- ・会場 かでる2・7
- ・内容 ことばの教室の基礎・基本と実践 構音障害・言語発達の遅れ編

大会時臨床研修会（第154回）

- ・期日 9月から配信（全道大会開催前に配信予定）
- ・会場 動画配信
- ・講師 西田 立郎氏（言語聴覚士）
- ・内容 未定（構音指導に関する内容）

第155回言語障害臨床研修会

- ・各ブロックの要望に対し、研究部を中心に協力。研修の時期について、以前は秋・冬としていたが、今年度については時期を指定しないこととする。（研修の希望があればご連絡ください。）

（2）ブロック間の交流

会員の研修機会を増やすために、各ブロックで行っている研修会・研究会案内を道言協HPで紹介し、他ブロック会員が参加・交流できるようにしていく（各ブロックで、他地区からの参加受け入れが可能な場合は、研修会案内を道言協研究部研修係までお知らせください）。

（3）研修情報の提供

公的な研修会や他団体の研究大会や研修会の案内、報告を道言協通信によって会員に周知する。

（4）研究部会研修会の開催

年に3回の研究部会研修会を開催する。

## 3. 組織部の計画

（1）「2025年度版 北海道における言語障がい児教育の実態」の発行

※ 2024年度は組織部で業務内容を見直した。（会員の声を大切に、調査の依頼や回収は年度初めの繁忙期を避ける）。2025年度はより簡略化を図り、以下の日程で今年度は進めていきたい。

○目的 ・教室運営上の諸問題に関する実態を明らかにし、内部の資料とすること。

・関係者に実態を把握してもらうための資料とする。

○HP上での公開とし、データでの配布・集約とする。

2025年 6月 今年度の調査項目の検討（削除・追加等）

7月 調査用データHP掲載

8月下旬 理事から調査係へ各地区の回収データ送付

9月 集計作業（組織部調査係）～10月

11月 編集作業（各原稿担当）～12月



- 2026年 1月 組織部全体で編集した原稿の検討・確認  
2月 印刷・製本発注（2025年度版）  
3月 2025年度版北海道における言語障がい児教育の実態発行  
ただし発送は8月を予定

## (2) 研究大会における全体会の企画

### 趣 旨

様々な課題や現状を交流する場、あるいは必要な共通理解をする場が全体会であると意義づけた。全体会で得られたものが、ブロックの活性化につながったり、会員の頑張りを支えたりすると思われる。それは、最終的には子どもがより良い教育を受けること、言難教育の専門性を高めるということにつながっていくであろうと考える。

○2025年度は、特別企画として、長く道言協に携わっている新旧会員に協力をお願いし、テーマに沿って語り合っていたく。

テーマは「道言協の研究を振り返って～子ども理解とは～（仮）」

- |               |                 |             |
|---------------|-----------------|-------------|
| 4月 理事会で提案     | 5月 運営委員会で進捗状況確認 | 6月 内容検討     |
| 11月 反省と次年度の計画 | 1月 次年度の計画       | 3月 次年度内容の決定 |

## (3) 組織部会研修会の開催

第1回組織部会研修会（2025.6月下旬予定）

今年度実態調査の質問項目の検討、研究大会全体会の検討 他

第2回組織部会研修会（2025.11月中旬予定）

研究大会全体会の反省と方向性の検討 他

第3回組織部会研修会（2026.1月中旬予定）

今年度実態調査の編集、研究大会全体会の反省と方向性の検討、組織の見直し 他

## 4. 広報部の計画

### (1) 道言協ホームページ（HP）の運営

- ・道言協の活動内容が必要時に閲覧でき、活動内容の変更や連絡がすぐに確認できるよう、HP係を中心に必要な情報を随時HPに掲載し、理事を通して閲覧を呼びかける。

### (2) 「道言協通信」「総会議案」の発行

- ・各部から原稿を集約し「総会議案」を発行する。（4月4日発行予定）
- ・昨年度同様、発行を年に4回とする。発行予定は以下の通りだが、発行時期や内容は状況に応じて変更する。道言協通信がHPに掲載されたことは理事を通して会員に通知し、閲覧を呼びかける。

○通信284号：2025年4月4日発行 ・理事会研修会の主な検討事項・調査と原稿のお願い・運営組織・  
会員調査・会費納入依頼・研修会案内 等

○通信285号：2025年6月17日発行 ・理事会研修会の報告・会費納入依頼・研修会・臨床研案内・  
函館大会連絡 等

○通信286号：2025年8月22日発行 ・函館大会諸連絡・協議の柱（案）・臨床研報告・大会臨床研案内・  
ブロック活動紹介・会員教室一覧発行報告・研修会案内 等

○通信287号：2026年1月16日発行 ・会長メッセージ・大会反省・大会臨床研まとめ・会費納入依頼 等

(3) 「研究大会発表集録」と「研究紀要（大会記録集）」を発行する。

- ・研究紀要執筆に関わる要項は第一回運営委員会後、各地域へメールで送信する。
- ・FAXを使った送信確認を廃止とする。
- ・研究集録に事例研究レポート（原則として4ページ）と教室運営・実践報告レポート（原則として2ページまたは4ページ）を掲載し大会前に会員に配付する。
- ・集録は、道言協会員分は発送係、その他必要分は開催地が発送する。発送状況を可能な限りHPでお知らせする。
- ・研究紀要の分科会記録は概要形式（A4版1枚）にし、記念講演録は講演資料（もしくは要旨）の掲載とする。分科会記録は記録者が中心となり概要をまとめ、発表者、コーディネーターの了解のもと、広報部に送付してもらう。

(4) 事務局との連絡を密にし、計画的に発送業務にあたる。

## 5. 庶務部の計画

- (1) 文書作成業務 ～ 理事会研修会、運営委員会研修会、部会研修会、事務局研修会の派遣依頼の作成と発送。（文書係）  
大会関係の講師・コーディネーターへの派遣依頼・お礼文の作成と発送。（文書係）
- (2) 文書の保管 ～ 各種文書の整理、保管、保存文書の製本作業。（文書係）
- (3) 会員の把握 ～ 「教室会員調査」の記載内容から発送ラベルを作成する。（会員係）  
「会員教室一覧」を発行する。（会員係）  
・A4版の規格とし、1頁に12～14教室を掲載する。会員の住所、電話番号は掲載しない。  
・末尾に「個人会員一覧」を綴じ込む。  
・「ブロック組織図」は各理事に原稿を依頼し、会員教室一覧の中に綴じ込んで発行。  
・4月「教室会員調査」についてHPに掲載、理事より集約、8月下旬頃発行。
- (4) 会計業務 ～ 予算案・決算案の作成。会費の徴収。旅費の支給。物品の購入と各種の支払い。  
会計台帳の作成。（会計係）

※ 2024年度は領収書の発行を抑えることができました。2025年度は、市町村などへの請求に必要な場合を除き、納入依頼書についてもご協力お願いいたします。

### 第4号議案 2025年度予算案

⇒ 予算書は17ページに掲載

### 第5号議案 会員提出議案

※ 議案を提出される会員は、4月10日（木）までに提案内容を事務局にお知らせください。追って会員に提案します。

## 第2号議案

## 2024年度決算・監査報告

## 2024年度決算報告

## Ⅰ. 収入の部

| 項目        | 2024年度予算         | 2024年度決算         | 決算－予算          | 適用                                                             |
|-----------|------------------|------------------|----------------|----------------------------------------------------------------|
| 繰越金       | 409,759          | 409,759          | -              |                                                                |
| 会費        | 1,600,000        | 1,804,000        | 204,000        | 4000円×451口(＋51口)                                               |
| 補助金       | 40,000           | 40,000           | -              | 北海道ことばを育てる親の会より<br>共催研修費を含む                                    |
| 年度当初準備金   | 177,719          | 177,719          | -              | (基準の額は例年300,000円)<br>研修会場費26,460円、全国大会参加<br>準備費用97,411円を支払済のため |
| 臨床研参加費    | 30,000           | 51,000           | 21,000         |                                                                |
| その他       | 2,522            | 104,930          | 102,408        | 利息450円・全難言協より5000円<br>/47480円・弘済会より50000円・R4<br>年度未納分会費2000円   |
| <b>合計</b> | <b>2,260,000</b> | <b>2,587,408</b> | <b>327,408</b> |                                                                |

## Ⅱ. 支出の部

| 項目         | 2024年度予算         | 2024年度決算         | 決算－予算           | 適用                                        |
|------------|------------------|------------------|-----------------|-------------------------------------------|
| <b>会議費</b> | <b>720,000</b>   | <b>522,195</b>   | <b>-197,805</b> |                                           |
| 運営委員会      | 270,000          | 276,438          | 6,438           | 運営委員会3回/組織部会2回/研<br>究部会3回                 |
| 理事会        | 150,000          | 118,520          | -31,480         |                                           |
| 大会運営委員会    | 100,000          | 75,757           | -24,243         | 胆振・渡島訪問                                   |
| 全難言協       | 180,000          | 45,520           | -134,480        | 理事会・沖縄大会(全難言より補<br>助があったため大きな黒字)          |
| 事務局会議      | 20,000           | 5,960            | -14,040         |                                           |
| <b>事務費</b> | <b>230,000</b>   | <b>202,216</b>   | <b>-27,784</b>  |                                           |
| 通信費        | 160,000          | 147,127          | -12,873         |                                           |
| 事務局費       | 70,000           | 55,089           | -14,911         | 事務局長交通費<br>関係者への礼物<br>他団体への参加費<br>硬貨手数料など |
| <b>事業費</b> | <b>967,000</b>   | <b>964,611</b>   | <b>-2,389</b>   |                                           |
| 本年度大会      | 150,000          | 193,918          | 43,918          | 弘済会からの補助金(50000円)に<br>より、見かけ上の赤字          |
| 大会準備金      | 121,000          | 60,440           | -60,560         | R7年函館大会分                                  |
| 研究集録       | 181,000          | 180,180          | -820            |                                           |
| 研究紀要       | 160,000          | 159,500          | -500            |                                           |
| 実態調査       | 155,000          | 154,220          | -780            |                                           |
| 会員教室一覧     | 70,000           | 71,500           | 1,500           |                                           |
| 研修推進事業     | 130,000          | 144,853          | 14,853          |                                           |
| <b>予備費</b> | <b>43,000</b>    | <b>34,907</b>    | <b>-8,093</b>   |                                           |
| 次年度準備金     | 300,000          | 300,000          | -               |                                           |
| <b>合計</b>  | <b>2,260,000</b> | <b>2,023,929</b> | <b>-236,071</b> |                                           |

## Ⅲ. 残高

2,587,408-2,023,929=563,479

残高 563,479円 を次年度に繰り越す。

|                 |         |   |
|-----------------|---------|---|
| <特別会計(特別事業積立金)> |         |   |
| 前年度繰越金          | 653,138 | 円 |
| 収入(積み立て)        | 20,000  | 円 |
| 収入(利子)          | 87      |   |
| 差引残高            | 673,225 | 円 |

## &lt;監査報告&gt;

収入・支出とも帳簿に記載の通り、間違いなく適正に執行されていることを認めます。

2025年 3月26日 監査 札幌市立真駒内桜山小学校長

西尾 美紀

2025年 3月27日 監査 札幌市立南郷小学校長

関根 治彦

## 第4号議案

## 2025年度 予算案

## I. 収入の部

| 項目        | A<br>2024年度予算    | B<br>2025年度予算    | B-A            | 適用                                      |
|-----------|------------------|------------------|----------------|-----------------------------------------|
| 繰越金       | 409,759          | 563,479          | 153,720        |                                         |
| 会費        | 1,600,000        | 1,640,000        | 40,000         | 4000×410口                               |
| 補助金       | 40,000           | 40,000           | -              | 北海道ことばを育てる親の会北海道協議会より                   |
| 年度当初準備金   | 177,719          | 269,710          | 91,991         | (基準の額は例年300,000円)<br>研修会場費30290円を支払済のため |
| 臨床研修会参加費  | 30,000           | 30,000           | -              | 臨床研参加費                                  |
| その他       | 2,522            | 3,811            | 1,289          |                                         |
| <b>合計</b> | <b>2,260,000</b> | <b>2,547,000</b> | <b>287,000</b> |                                         |

## II. 支出の部

| 項目         | A<br>2024年度予算    | B<br>2024年度決算    | 2025年度予算         | B-A            | 適用                               |
|------------|------------------|------------------|------------------|----------------|----------------------------------|
| <b>会議費</b> | <b>720,000</b>   | <b>522,195</b>   | <b>780,000</b>   | <b>60,000</b>  |                                  |
| 運営委員会      | 270,000          | 276,438          | 320,000          | 50,000         | 運営委員会3回/組織部会3回/研究部会3回            |
| 理事会        | 150,000          | 118,520          | 180,000          | 30,000         | 理事会1回開催                          |
| 大会運営委員会    | 100,000          | 75,757           | 100,000          | -              | R7函館大会 R8札幌大会                    |
| 全難言協       | 180,000          | 45,520           | 160,000          | -20,000        | 理事会・全国(東京)大会                     |
| 事務局会議      | 20,000           | 5,960            | 20,000           | -              |                                  |
| <b>事務費</b> | <b>230,000</b>   | <b>202,216</b>   | <b>270,000</b>   | <b>40,000</b>  |                                  |
| 通信費        | 160,000          | 147,127          | 200,000          | 40,000         | 郵送/宅配代、HP運営費用など                  |
| 事務局費       | 70,000           | 55,089           | 70,000           | -              | 事務局長交通費<br>関係者への礼物<br>他団体への参加費など |
| <b>事業費</b> | <b>967,000</b>   | <b>964,611</b>   | <b>1,043,500</b> | <b>76,500</b>  |                                  |
| 本年分大会費     | 150,000          | 193,918          | 150,500          | 500            | R7函館大会 15万円                      |
| 大会準備金      | 121,000          | 60,440           | 121,000          | -              | R8札幌大会R9上川大会 各6万円                |
| 研究集録       | 181,000          | 180,180          | 190,500          | 9,500          | 冊子予算 19万円                        |
| 研究紀要       | 160,000          | 159,500          | 170,500          | 10,500         | 冊子予算 17万円                        |
| 実態調査       | 155,000          | 154,220          | 165,500          | 10,500         | 冊子予算 16.5万円                      |
| 会員教室一覧     | 70,000           | 71,500           | 75,500           | 5,500          | 冊子予算 7.5万円                       |
| 研修推進事業     | 130,000          | 144,853          | 170,000          | 40,000         | 臨床研運営費用など                        |
| <b>予備費</b> | <b>43,000</b>    | <b>34,907</b>    | <b>103,500</b>   | <b>60,500</b>  |                                  |
| 次年度準備金     | 300,000          | 300,000          | 350,000          | 50,000         |                                  |
| <b>合計</b>  | <b>2,260,000</b> | <b>2,023,929</b> | <b>2,547,000</b> | <b>287,000</b> |                                  |

※交通費・宿泊費・印刷費…など、多くのものの値上がりを踏まえ、バランスを見ながら予算を増やしています。

※通信費については、今後ますますオンラインを活用する機会が増えるとともに、安全に使用できるように検討することを視野に入れています。

※研修推進事業については、独立会計だった臨床研を全体の会計に一本化したことから増加の幅が大きくなっています。